

やなぎはら

りょうへい

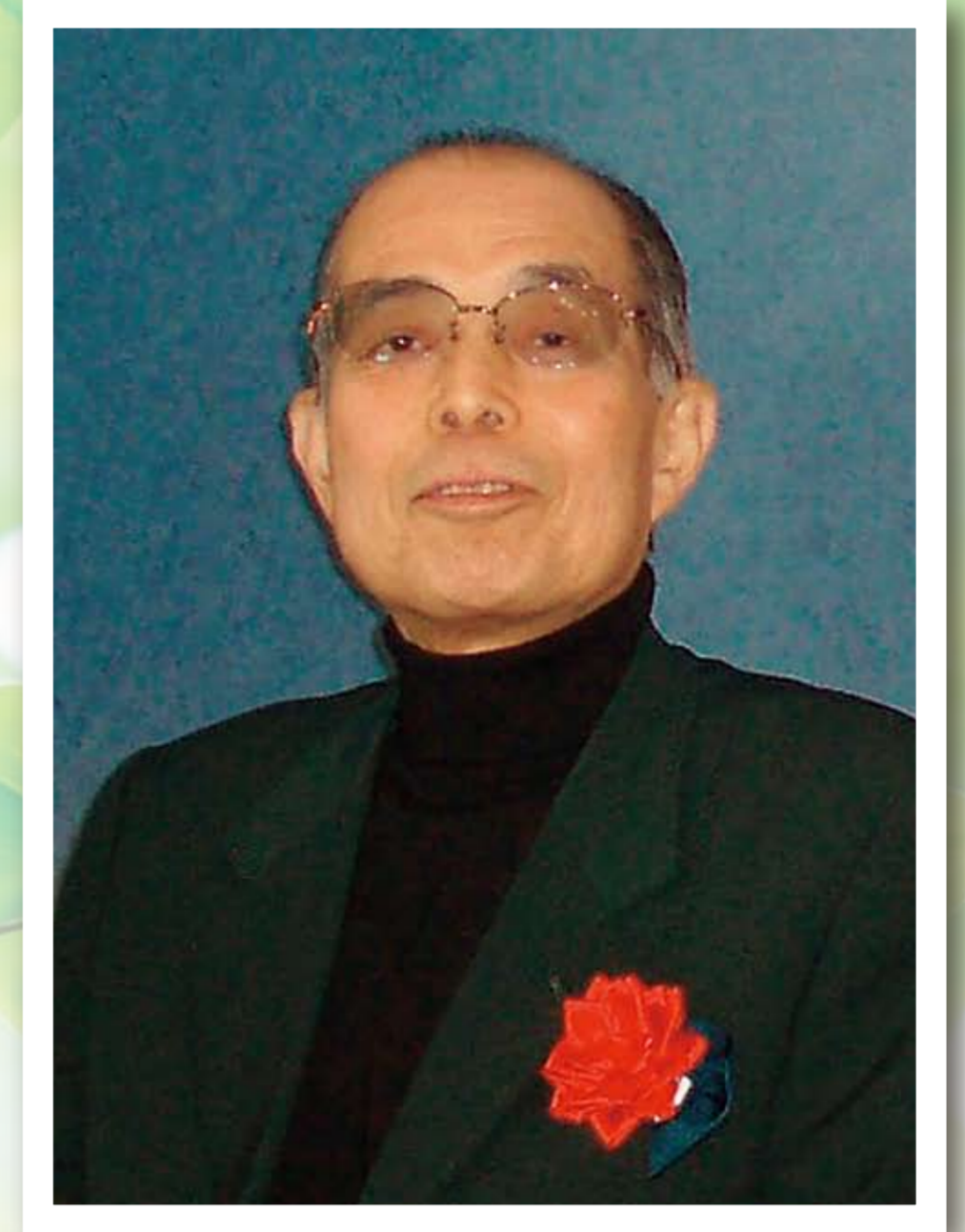
柳原 良平

(イラストレーター、画家、漫画家、海事評論家)

日本の高度成長期に親しまれたCMキャラクター『アンクルトリス』の生みの親。電通賞、毎日産業デザイン賞など受賞多数。広告の世界に止まらず、イラストレーターの先駆けとして、絵本、本の装丁などの分野でも活躍。

無類の船好きとしても有名で、船に関する数々の著書は、日本の船舶趣味・クルーズ趣味に大きな影響を与え、海運各社から名誉船長の称号を贈られている。

柳原良平名誉船長は、2015年8月17日にご逝去されました。慎んでご冥福をお祈り申し上げます。



プロフィール

- 1931(昭和 6)年 東京都に生まれる。
- 1950(昭和25)年 京都市立美術大学（現在の京都市立芸術大学）工芸科に入学。
在学中、三和銀行業務部で嘱託として広告デザインの仕事に携わる。
(宣伝責任者はアートディレクターとして著名な山崎隆夫氏)
- 1954(昭和29)年 大学を卒業後、山崎隆夫氏とともに寿屋（現在のサントリーホールディングス）に入社し、大阪本社宣伝部意匠課に配属される。
同僚の開高健・酒井睦雄・山口瞳らと共に新聞広告、TV コマーシャル、PR 誌『洋酒天国』など多数手がけ、寿屋宣伝部の黄金時代を形成する。
新聞広告で、日本経済新聞社広告賞、朝日新聞社広告賞、毎日新聞社広告賞を受賞。
- 1958(昭和33)年 同僚仲間と共に、CMキャラクター『アンクルトリス』を生み出す。
二頭身半のシルエット、愛妻家、小心者だが正義感が強く、時に哀愁を滲ませる。そんな等身大のキャラクターが高度成長期の日本人に愛され、ウイスキーブームの火付け役になった。
これにより、電通のテレビコマーシャル賞、毎日広告デザイン賞、毎日産業デザイン賞を受賞。
- 1959(昭和34)年 寿屋を退社。
- 1960(昭和35)年 退社後も嘱託として宣伝に関わる一方、久里洋二氏、真鍋博氏と共に「アニメーション3人の会」を結成。
短編アニメ映画制作に精力的に取り組む。
朝日新聞に『ピカロじいさん』、読売新聞に『今日も一日』等、四コマ漫画の連載で人気を博し、仕事の領域を大きく広げた。
- 1964(昭和39)年 広告制作会社(株)サン・アドを設立。
開高健・酒井睦雄・山口瞳・坂根進らサントリー宣伝部出身者を中心メンバーとし、会長に佐治敬三、社長に三和銀行時代からの恩師、山崎隆夫を迎えた。
無類の船好きとして知られ、1960年代から国内外の主要な客船を制覇。
商船三井、東海汽船、佐渡汽船、太平洋フェリー等の名誉船長に任命された。
- 1977(昭和52)年 横浜文化賞を受賞。
- 1986(昭和61)年 運輸大臣海事功労者表彰を受ける。
みろくの里版画工房（広島県福山市）リトグラフ制作を始める。
絵本作家としても知られ、代表作・切り絵で描いた絵本『かおかおどんなかお』等の作品多数。
- 1990(平成 2)年 運輸省交通文化賞を受賞。
1964年に転居し、長らく港町横浜に居を構えながら、船舶、港湾を生涯のモチーフとして作品を制作。
地元の画廊で毎年欠かさず個展を開いた。
『柳原良平の船の本』『船旅を楽しむ本』『船の画集』等、船に関係した著書多数。
- 2010(平成22)年 大阪市立海洋博物館「なにわの・海の時空館」内にミュージアム「アンクル船長のギャラリー」がオープン。
サントリー「トリスのハイボール」新発売に伴い、『アンクルトリス』のCMが登場。
- 2015(平成27)年 8月17日、84回目の誕生日に永眠。